

各 位

株式会社 東北銀行

当行の水稻中干し期間延長による J-クレジット創出の 支援実績について

東北銀行（取締役頭取 佐藤 健志）は、株式会社フェイガー（代表取締役 石崎 貴紘、以下「フェイガー」）と共に、水稻生産者（以下「生産者」）が取り組む「中干し期間延長による J-クレジット創出（※）」を支援しましたので、下記の通りお知らせいたします。

2024 年は、フェイガーと連携して生産者の申請作業をサポートする支援体制を地方銀行として全国で初めて構築し、生産者の支援に取り組みました。

当行が支援した先を含む全国の実産者の申請を取りまとめたフェイガーの「水稻栽培における中干し期間の延長」プロジェクトは、第 64 回 J-クレジット制度認証委員会においてクレジット認証を取得しております。このうち、当行が取り組みを支援した岩手県、宮城県、秋田県における生産者が創出した J-クレジットは 7,270 t-CO2 となりました。この取り組みにより、農業の脱炭素化を通じて、カーボンニュートラル社会の実現に貢献しております。

なお、認証された J-クレジットはフェイガーが生産者から全量を買取り、フェイガーを通じて生産者の方々へその収益が還元されています。

2025 年は、猛暑が続き、例年以上に水稻栽培において水管理を含めた繊細な対応が求められましたが、前年を上回る生産者数と圃場規模で J-クレジット創出に向けた取り組みが行われ、当行はその支援を実施しました。現在、フェイガーにより J-クレジット制度認証委員会への申請に向けた手続きが進められており、当行が支援した生産者からは、前年を上回る J-クレジットが創出される見込みです。

当行では、引き続き農業由来 J-クレジットの認証実績が国内最大級のフェイガーと共に、クレジット創出の取り組み拡大を図り、生産者の所得向上と農業の脱炭素化を進め、農業の持続的な成長・発展を支援することで「地域力の向上」に努めてまいります。

記

1. 2024 年に当行が創出支援した J-クレジットについて

実施地域	岩手県、宮城県、秋田県
生産者数	計 94 先
圃場規模	計 1,296ha
J-クレジット創出量	計 7,270 t-CO2 （約 3,600 世帯の年間電力消費量に相当）

2. 株式会社フェイガーについて

会 社 名	株式会社フェイガー		
所 在 地	東京都千代田区大手町 2-2-1 新大手町ビル 3 階 0 Club		
代 表 者	代表取締役 石崎 貴紘	設 立	2022 年 7 月 7 日
事 業 内 容	環境配慮型農業の推進に資するサービスの提供、および農業由来クレジットの生成と販売		
特 記 事 項	第 64 回 J-クレジット制度認証委員会で 135,944 t-CO2 のクレジット認証		
U R L	https://faeger.company/		

3. 当行の J-クレジット創出支援に係るフロー図



(※) 水稲栽培における中干し期間延長による J-クレジット創出

水田から発生するメタンは土壤に含まれる有機物や肥料から嫌気性菌であるメタン生成菌の働きにより生成されます。水田からのメタンの発生を減らすには落水期間を長くすることが重要で、水稲栽培において通常行われる中干し期間を延長することによるメタン発生量を削減する手法が J-クレジット制度における農業分野での方法論で承認されています。



以 上